

令和7年度 第2回高根沢町未来創造会議 記録

1. 開催日時 : 令和7年9月16日(火) 14時00分～15時30分
2. 開催場所 : 高根沢町役場大会議室
3. 会議の趣旨 : (1)「第1回若者ミーティング」の概要及び今後の連携について
 (2)「高根沢町地域経営計画2026(案)」について

4. 出席者

(構成委員)

部門	所 属	職 名	氏 名	備 考
産業	高根沢町農業士会	会長	仲山光弘	欠席
産業	高根沢町経済懇話会	会長	斎藤隼人	
官公庁	高根沢町議会	まちづくり常任委員会委員長	澤畠宏之	
官公庁	高根沢町議会	くらしづくり常任委員会委員長	森弘子	
官公庁	高根沢町教育委員会	委員	斎藤君世	欠席
学術	宇都宮大学地域デザイン科学部	教授	佐藤栄治	
金融	足利銀行宝積寺支店	支店長	秋場陽子	
民間	高根沢町自治会連合会	会長	野口昌宏	
民間	高根沢町人権擁護委員会	会長	安達奈美	
官公庁	高根沢町	町長	神林秀治	座長

(事務局)

高根沢町企画課	課長	檜山史進	説明
	課長補佐	直井義之	司会
	主任主査	菅谷昌孝	説明
	主任主事	田代真也	記録

5. 質疑応答内容

(1)「第1回若者ミーティング」の概要及び今後の連携について

①第1回若者ミーティングについて

森委員:若者が地域と関わることで、もう少し違った観点の意見が出てくるのではないか。

事務局:若者自身が取材することで、地域に対する理解を深めていくことにつながる。今日の議題としては、若者ミーティングの持ち方について、町長との懇談だけでなく、メンバーの意向も聞きながら、事業の立案や実働部隊としての活動も含めていってはどうか?ということを提案させていただいた。

森委員:地域経営計画2026(素案)や財政計画は情報提供しているか。

事務局:計画素案の情報提供のみ。財政状況に関することは、公債費の予測など細かい数字の説明はしておらず、厳しい財政状況や事業の取捨選択をしなければならないといった全体的な状況説明を行った。

野口委員:自治会に対して若者は興味を示していないと思われる。若者にとっての自治会の意義を聞いていただけたとありがたい。参加メンバーについては自治会からの推薦を行ってもよいのではないか。

秋場委員:課題の整理にあたっては、現状と理想の姿とのギャップを埋めるという観点でしていくと思うが、町の良いところとして、どのようなものが挙がったか。課題の深掘りの中では、良いところをさらに深めていく必要がある。

事務局:地理的な優位性、自然環境といった部分が挙がっており、それらを守っていきたいという意見が多かった。

佐藤委員:意見をみると、施設名がよく出てくる印象を受ける。若者の中で、拠点があることは認識されているが、そこに関わる社会課題が連携されていないという状況がある。みんなが知っている施設で求心力のある取組を行っていくのがよいのではないか。

神林町長:若者ミーティングの中では、若者が自由に集まれる拠点がほしいという意見があった。

佐藤委員:誰でも集まるようにすると、特定の人しか集まらないという負の要素が生まれる場合がある。

安達委員:ちょっと蔵広場ができてすぐの頃に駄菓子屋さんができたとき、中学生が多く集まってしまい、小学生が集まりにくくなってしまった。町にはイベントは多いが、普段足を運べるところがないという意見が多い印象を受けた。情報館の取組(地元の人が野菜を売りに出しているなど)がもっと広まるとよいのではないか。

森委員:那須烏山市大金にある空き家を活用した本屋さんを視察したが、そこは民間が発案した施設である。行政主導ではなく、居場所を作つていこうという思いのある方が集まらないと、地域の居場所づくりにつながらないのではないか。

澤畑委員:知人から、宝積寺駅前が暗いという意見をいただいた。明るさには制限があるが、関係機関に申し入れることはできないか。

森委員:既に申し入れは行っており、制限の緩和は難しいと聞いている。

野口委員:若い人たちが集まれる場所を、当事者である若者に考えてもらうことはできないか。また、ちょっと蔵ホールを若者が集まるように改修はできないか。

澤畑委員:元気あっぷむらにこどもが遊べる場所がないという意見をいただいた。更なる集客のためにも、新しい取組を実施すべきではないか。

神林町長:こどもが遊べるスペースは2階の多目的ホールに整備している。親水公園の活用については、グランピングのテナント事業者が検討しているところ。

安達委員:イベントも大切だが、普段からそこに何かがあるから行きたいと思えるような場所になると良い。さくら市総合公園では壁打ち施設が整備されている。必ずしも管理人を配置してお金をかけなくてもできることはあると思う。

森委員:元気あっぷむら2階の遊具は未就学児向けという印象を受けた。ただ、財政状況的に元気あっぷむらにグリーンパークと同じような小学生が遊べる施設を作るわけにはいかない。

安達委員:元気あっぷむらは未就学児のいる子育て世代がゆっくりと過ごせる場所、小学生はグリーンパークに、といった形で用途分けをし、各世代の町での過ごし方を提案していくと良い。

②第2回若者ミーティングの進め方について

秋場委員:情報発信については、重要な項目と考えているが、誰が発信するかが結果に大きく影響する。影響力のある方に発信してもらうのがいいと思う。

佐藤委員:情報発信の事業は、単年度単発で終わることが多いが、教育委員会を巻き込むことが有効である。例えば、高根沢高校の総合の時間などで高根沢町のことを発信するような授業をカリキュラムとして組み込むことで、自走化につながる。

野口委員:町長のトップダウンで、教育委員会や学校を動かしていただきたい。

澤畠委員:商業研究発表大会の一つのテーマとして、情報発信について研究してもらうよう高根沢高校に働きかけてはいかがか。

森委員:今回の話を小中高まで広げてしまうと大きい話になってしまふ。まずは若者ミーティングのメンバーと一緒に企画課で進めていくのがよいのではないか。

事務局:今回のメンバーに、どこからできるかという相談から始めていきたい。

佐藤委員:企画の立案は、若者ミーティングのメンバーで良いと思う。立案した事業を展開していくにあたっては、小中高校のカリキュラムに組み込むことでうまく回っていく。

野口委員:児童生徒に、どのようなまちづくりができるかということを考えてもらうことは非常に重要。

⇒第2回若者ミーティングの進め方については、事務局提案のとおり了承された。

(2)「高根沢町地域経営計画 2026(案)」について

森委員:町民懇談会は広報で周知を行ったが6人しか集まらなかつたとの話があつたが、このことについてどう考えているか。

神林町長:できるだけ多くの人に参加していただくためには方法を変えなければならないが、どういう方法がよいか考えていきたい。

野口委員:参加者の少なさは自治会加入率の低下とも関連している。町にどのように関心を持つてもらうか、町としてもう少し考えてほしい。

森委員:那須烏山市では、行政職員が自治会に働きかけていっている。行政が仕掛けづくりをしないと住民は動かない。

佐藤委員:うまくいった事例はよく見えるが失敗した事例は見えてこない。一回、元気な人を投入するというののは1つの方法としてはある。

秋場委員:高根沢町は若い世代が多く流入してきている。そういう方が参加できるよう、オンライン開催など仕組みを工夫してはいかがか。

野口委員:YouTubeによる発信など、オンラインツールの活用の範囲を広げていっていただきたい。

森委員:地域経営計画 2026 のレイアウトや文章については、今後修正されていくのか。

事務局:最後の微調整として、文言の注釈を入れるほか、細かいデザインや見やすさについては最終調整させていただく。

森委員:町民の声はこれ以降聞かずには、成案にしていくということか。

事務局:成案に向けた意見聴取としては、今まで行ってきた意見聴取と、これから行うパブリックコメントで終了となる。ただし、計画を作ったから今後一切意見は聞かないということではなく、計画策定後も計画に計上している施策や保留になっている施策については隨時意見を聞きながら進めていく。

森委員:本計画の事業は、やりながら柔軟に実施の可否を判断していくということか。

事務局:計画は計画として道しるべとなるものであるが、財政状況に応じた精査を毎年度かけながら運用していきたい。

以上